

# 荘内中版:学びスタイル「先行学習を基盤とした協同学習」

## 【荘内小学校で定着させる中学校での学びに向かう力の育成】

### 小学校では中学校での学びスタイルを意識して小学校卒業時の資質・能力を育成

- ①学び合い活動充実の中で協同学習へ移行するための資質・能力を育成
- ②発達段階に応じた予習・復習の学習サイクル推進能力の育成(チャレンジノートの取組等)
- ③発達段階に応じた情報活用力及び学習用端末活用力の育成

円滑な移行

管理職部会・学力向上部会で定期的に小中一貫教育による学力向上を協議

## 荘内中版:学びスタイル

これからの社会活動を想定し学習用端末使用による学びの姿の理想像をイメージしながら学習活動をデザインすること。

### 【学びスタイルの概要】

- ①先行学習として、授業以前に学習内容の概要をイメージし見直しをもって自学自習に取り組む予習学習活動を基盤とした授業をデザインする。
- ②授業では協同学習を推進し、他者の意見や考えを取り入れながら自己分析・自己調整を繰り返しながら個別最適な学習に意欲的に取り組み、自己を高めようとするよう指導法を工夫する。
- ③習得場面や探求場面における「課題解決型学習」を推進し、教え合い高め合いながら集団で学力向上を目指すよう指導法を工夫する。
- ④生徒の自己評価や学習状況を把握し、特別な学習支援が必要な生徒に対し、協同学習の中での個別支援や個別最適化課題等により特別な支援を行う。

## 1 先行学習活動を重視(メタ認知能力の醸成)

### 先行学習(各単元の学習内容に応じて設定)

- (1)授業前の教師が指定した内容を予習する学習
- (2)単元全体の学習内容を予習する学習
- (3)生徒が独自に取り組む予習学習

先行学習による学習履歴はクラウドでの提出やチャレンジノートの提出その他多様な形態が想定される。教師はどのような形態の学習履歴であっても適切に評価する。

### 【先行学習の留意点】

- (1)教科書を読解する活動を重視して提示
  - ①教科書を読解する力は、自学自習の基本的且つ重要な能力であることを重視して指導を徹底
  - ②単元評価に反映するため、教科書を読解した学習履歴を残す課題設定を工夫
- (2)学習用端末を活用するクラウド予習課題を提示
  - ①教科書読解後にスタディサプリでの動画視聴及び確認テストによる自己調整を行うとともに、ミラードによる自学自習の深化活動を奨励
- (3)チャレンジノートによる自学自習学習の整理(ノート及びデータの個別選択)
  - ①先行学習活動により習得した学習内容の整理や疑問点、協同で話し合いたい事項等をチャレンジノートにまとめる活動を奨励
  - ②独自に考案したデータによるまとめ活動も奨励

## 2 協同学習による授業デザイン

### 協同学習(生徒に提示する項目)

- (1)授業で自分が何をすべきか理解しよう。
- (2)グループ活動に参加する前に自分の考えを持とう。
- (3)グループの中で自分の役割を果たし、仲間の成長のために助け合おう。
- (4)人の意見を聞いて、自分の考えを広げたり深めたりしよう。
- (5)授業後に自分がどんな学習に取り組むべきか考えよう。

協同学習の意義を生徒に伝えながら、提示項目を実施して学習に取り組んでいるかどうかを自己評価しながら取り組んでいくよう授業内容をデザインしていく必要がある。

授業は各単元を貫く学習目標の達成を目指して多角的に計画されるものであり、一律に授業の流れを決めるものではないが、予習活動を前提とした先行学習と授業における協同学習の推進は本校の学びスタイルである事を踏まえ、指導計画を立案することが重要である。

単元  
目標

先行学習と協同学習の観点で  
単元を貫く授業デザイン

各授業SCENEを  
単元計画の中で適切にデザイン

先行学習  
評価

個別最適化支援

授業内  
評価

単元末テ  
スト評価

再挑戦による再評価

単元総合テ  
スト評価

# 荘内中版:学びスタイル「先行学習を基盤とした協同学習」

各授業SCENEは、1単位時間にいくつか設定される場合もあれば、1SCENEで1単位時間を費やしたり、学習内容により様々な構成が考えられる。単元の全体計画の中で適切にデザインしていくことが大切である。

## SCENE1 先行学習内容の確認場面「学習意欲の向上」

- ①予習課題の学習内容を短時間で教授
- ②生徒の疑問点や協同で話し合いたい事項等を確認
- ③生徒の理解度を確認
  - ・理解度確認問題の実施やクラウドでの疑問点や提案等の事前提出等
  - ・意見共有アプリ等を活用して学級集団の学習全体像を明確化
- ④生徒の相互説明による学習内容の確認等の学習活動
  - ・生徒が整理したデータやノートによる説明(教え合う場面設定)

## SCENE2 教師の補説及び学習目標提示「教師の説明」「学習デザインを明確化」

- ①生徒の理解度から勘案し、必要な補説を実施し、学習ポイントを焦点化して教授
- ②学級全体の先行学習の状況を整理し学習の方向性を明確化
- ③学習目標・協同解決課題を提示

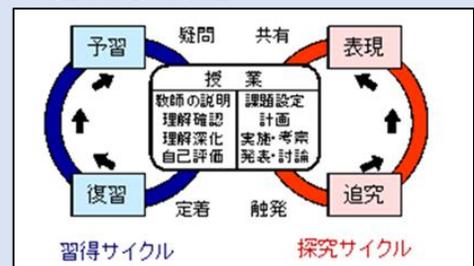
## SCENE3 協同学習による学習内容の習得場面を設定「理解深化」

- ①学習目標を達成できる適切な学習課題を提示
- ②生徒の学習組織設定を工夫(自己責任と互惠関係)
- ③個別解を持つ場面を設定
- ④課題解決型学習を個別・ペア・グループ活動等で実施
  - ・個別解から活動の中で自分の考えを深化、修正することを重視「自己評価」
- ⑤アウトプット活動を積極的に設定

## SCENE4 協同学習による学習内容の探求場面を設定「応用力育成」

- ①単元を貫く学習目標を実現するための探求課題を設定
- ②課題解決型学習を個別・ペア・グループ活動等で実施
  - ・個別解から活動の中で自分の考えを深化、修正することを重視「自己評価」
  - ・既習内容を活用しながら協同で課題を探求
- ③解を取りまとめてアウトプットすることで学習内容の一層の深化・定着を推進

★SCENE3・4については、単元目標の実現の観点からどのように設定すべきかを勘案し、学習効果が期待されるよう単元学習内に適切に位置づける。  
また、グループ活動場面での個々の生徒の振り返り場面を設定しながら個別の学習進度を確認し、個別支援を行わなければ、個々の学力向上は図れない。



## SCENE5 自己評価場面の設定「振り返り」「自己調整」

- ①予習課題実施後の自己評価から単元を通して適切な学習場面で自己評価を行って自己調整をする学習履歴を残す場面を設定
- ②単元末テスト実施後は自己評価表を記入させ、自己の学習内容の定着度から自分が再学習すべき項目を立案

### 3 授業実施後の課題提示

- (1)既習内容を整理する課題を提示
- (2)個別最適が学習内容を提示
- (3)協同学習を進める中で個々の役割を果たす課題を提示
- (4)アウトプットのための整理課題を提示

単元内で学習のPDCAサイクルを展開し個別最適な学びに向かう力を醸成

### 4 その他の視点

- (1)SDGsの観点を常に意識し、学習内容を教授する。(社会・生活に繋がる学習推進)
- (2)キャリア教育の観点を常に意識し、授業の中で未来社会をイメージさせる。